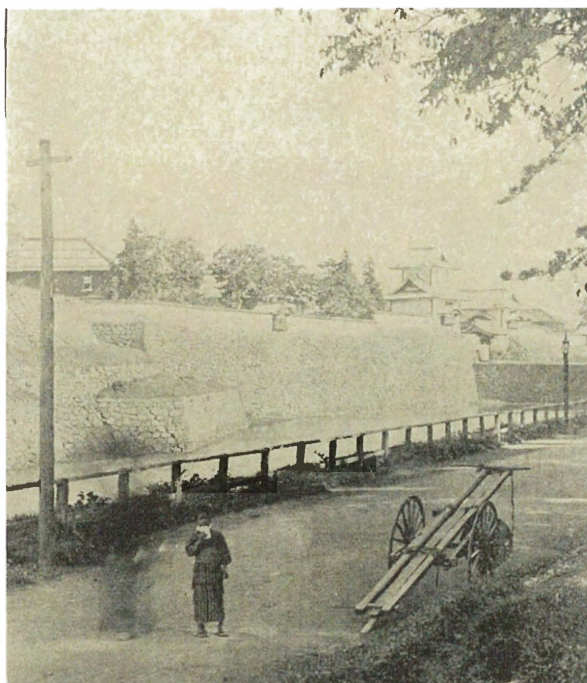


知的コミュニティ基盤研究センター
図書館情報学図書館
共催展示（予定）

金沢の肖像写真について

綿拔豊昭



金沢城 明治 36 年頃

2017 年 2 月 25 日

筑波大学図書館情報メディア系
知的コミュニティ基盤研究センター
<http://www.kc.tsukuba.ac.jp>

知的コミュニティ基盤研究センターは、筑波大学図書館情報学図書館との共催で、図情図書館メディアミュージアムにおいて、おりおりに特別展示を開催している。2017 年度には「金沢の肖像写真」の展示を予定している。

2020 年の訪日外国人 4000 万人とその消費額8兆円をめざす政府目標のもと、2017 年度の国土交通省の観光関連予算が大幅に増額されたことは記憶に新しい。前年度比 160 億円増の 346 億円のうち、地方誘客や観光消費拡大に向けて 94 億円が当てられるとのことである。この 94 億円の予算のうちには、日本各地の魅力を世界に発信する訪日プロモーションの強化が含まれているという。

かつてある地方では、観光客を呼び込むために、東京にあるような施設を建て、東京で食べることができるような料理を提供し、この地を訪れて東京で味わえないのは、風景だけだ、と批判されたことがある。その地方独特のものを提供しなくてはならなかったということであろう。

同様なことが今日においてもいえよう。すなわち、「日本」という地方では、日本的なものを訪日外国人に提供することが必要と考えられる。たとえば 2016 年 12 月 26 日付『四国新聞』に、日本政策投資銀行四国支店長・原幸宏氏執筆の記事が掲載された。それは「四国を訪れる外国人の意向調査」についてで、「「和」文化に高い関心」と記されている。

この調査によると、上位にあがったのは以下の通りである(複数回答)。

自然や風景の見物	50.6%
伝統的 日本料理を食べる	42.4%
現地の人が普段利用している安価な食事	39.6%
日本旅館での宿泊	39.0%
有名な史跡や歴史的建造物の見物	37.4%

たしかに「「和」文化に高い関心」といえよう。

なお、この調査結果に対して原氏は「いずれも四国にある地域資源で十分に対応可能と思われる」とのべられているが、「対応可能」ではなく、「地域資源を十分に利活用して対応すべき」と考えるべきではなかろうか。

また原氏は以下のように結論づけている。

今後も、四国の地域資源に魅力を感じて訪れる外国人が増えること

が期待されます。四国を訪れる可能性の高い国や人にターゲットを合わせ、適切・的確に魅力や情報を発信し続けていくことが大切です。外国人の中に「四国ファン」をどれだけ増やせるかが鍵を握ると思われる。

「適切・的確に魅力や情報を発信し続けていくこと」が「大切」であることは首肯されるが、では実際に、どのような魅力・情報を、どのように適切・的確に発信するのか。その点を忘れてはなるまい。

そうしたことを視野に入れ、一つは筑波大学がつくば市にあることをかんがみて「筑波山観光」を、今一つは北陸新幹線開通により観光客の大幅な増加が見込まれた「金沢観光」を想定した展示を考えた。一つは地域そのものに、一つは地域文化に重点をおくためである。「筑波山」の展示は、2016年度におこなった。

先の「四国を訪れる外国人の意向調査」によれば、アジアからの訪日外国人は「日本旅館での宿泊」「有名な史跡や歴史的建造物の見物」などへの関心が高く、欧米豪からの訪日外国人は「日本文化の体験」「日本の酒を飲む」「伝統工芸品の購入」など体験、飲食、買い物について関心が高いそうである。これを参考にしてのべれば、「筑波山観光」はアジア向き、「金沢観光」は欧米豪向きといえようか。

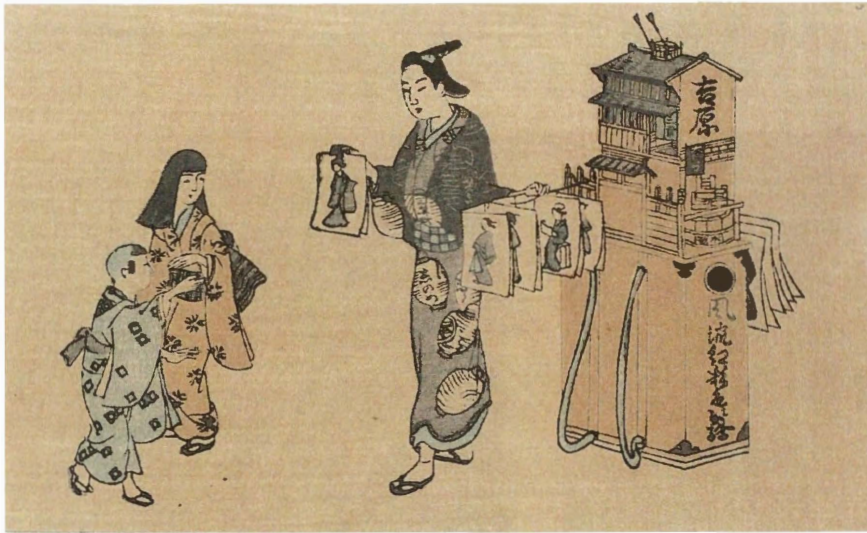
肖像写真の利活用

明治時代以後、肖像写真が多く撮られた。肖像権にさしさわりのない時期のものが数多く現存する。それらのうち個人蔵のものは、その写真に写られた方のご子孫等が、その家の歴史に思いをはせるなどなされ、博物館蔵のものは展示に利用されたりしている。こうした現況の中、観光資源としての視点をもってテクノロジーを用い、あらたな利活用の研究をしている。

さて、これらを図情図書館メディアミュージアムでどのように展示するかについては、次のようなストーリーを考えている。

① 女性の肖像画販売

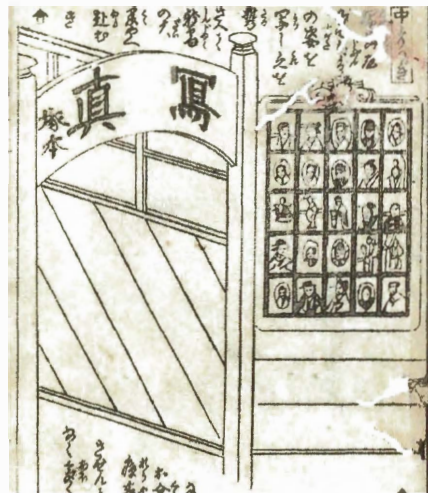
江戸時代、印刷された肖像画は、いわゆる錦絵・浮世絵といわれるものであった。下図は、吉原で遊女の、いわばプロマイドが売られている様である。



② 明治の肖像写真

明治時代になり、写真が一般にも普及するようになった。左下は、カメラを使用している、豊原国周の美人画である。過渡期であるため、写真撮影の様が、錦絵で描かれている。右下は、明治 13 年頃の写真屋の風景と思われる挿絵である。肖像写真が店先に展示されている。

写真は、現在では修正が容易になり、真実を写すものではなくなったが、かつては「真」を「写」すものであった。



③ 個人の写真撮影

現代のデジタルカメラは個人で入手可能な価格であり、プリント代も安価である。

しかし、初期のカメラは高価であり、写真師といわれるプロが撮影するものであり、撮影代も現像代も安価ではなかった。したがって、個人の写真は特別なものであった。



前ページの4点は、金沢にあった「金沢写真院」で撮影されたもの。左上をのぞき、以下の裏書きがある。

右上：予科二年生 瀬戸いさの様より戴く(十六才)

左下：大正十年二月二日 本科第二学年 神谷きくの(十才)

右下：師範在学 美濃はな子様より戴く 当年十六才

左下は、眼鏡をかけたままであり、少々異風。



上2点、および左は
金沢の「中村正義」によって
撮影されたもの。

右上には次の裏書きがある。

青木松枝(十九才)



金沢の「高桑写真館」での撮影。
後ろ手は若い人のポーズではなく
右向きは少数派である。



能登輪島の「輪島館」での撮影。
裏書き: 妙子様まゐる 芳子

④ 芸妓について

江戸時代、木版刷の錦絵では、勤務先の広告を意図した、お勤めをしている特定の女性が描かれることがあった。その一方で、芸妓といった職業の女性に関しては、特定の人物だけでなく、芸妓の日常生活が描かれることがあった。下は、国貞が画く、芸妓が新春の稽古におとずれた場面である。





左は、いわば出勤前の
身支度を描いたもの。
口にくわえた糠袋、
着物の柄の源氏香のデザインなど、
この絵に描かれたものを題材に
語ることのできる日本文化は
少なくない。

⑤ 芸妓の肖像写真

金沢は、第二次世界大戦のおりに空爆などを受けていないため、多くの肖像写真が現存していると思われる。

こうした写真で、看過できないのが芸妓の肖像写真である。春を売る娼妓と異なり、芸を売る芸妓は、人前に顔を出すことをいとわなかったようである。自分の肖像写真は、今日でいえば、高価な営業用名刺である。

『石川の女性史』（平成5年、石川県各種女性団体連絡協議会発行）によれば、大正元年に娼妓数 465 人に対して、芸妓数は 1330 人であり、第二次世界大戦のおりには、石坂遊郭から芸妓の写真が 200 枚、戦地の郷土の兵士に送られたとのことである。多くの芸妓肖像写真が出回っていたと考えられる。

芸妓の写真は、いわば「写真集」としても発刊されており、また雑誌にも掲載された。たとえば次は『観光の金沢 第六号』（1936年5月）に掲載されたもののうちの一枚で、西廓・小川屋「富菊」の肖像写真。こうしたものは百点以上収集可能と考えられる。



以下、芸妓の肖像写真と考えられるものをあげる。

1 金沢市殿町・小池写真館(小池兵治)撮影



裏書き:
近安 笑香



裏書き:
山田屋 小金



裏書き:
浅野屋 音重



H. Koike
HAKAZAMA JAPAN.

裏書き: 越 洪 信子



裏書き: 金沢東廓 浅野屋 操



裏書き: 金沢市東廓 大重由恵

2 金沢市古寺町・高桑五十松撮影



裏書き: yata - yuki



裏書き: yamada - kumi

yata - yuki 40.1.22



裏書き: shibo - koyo 40.1.22 nd



* 右上、左下、右下の絨毯の模様が同一



3 金沢市材木町・湯浅写真館撮影



裏書き: 金沢東 大重辰子



裏書き: 金沢東 大重辰子(右)

山田屋政子(左)

四十三年一月写



4 金沢市野町・金守写真館撮影



裏書き: 西廓 呉座や ことみ



裏書き: 西廓 風月楼 はま子

5 島田一太郎撮影



裏書き: 西廓 橘家 小菊

6 金沢市香林坊金沢写真館撮影



裏書き: 金沢東 今初美代

今後の課題

以上にあげた錦絵・写真に、さらに資料を加えて日本文化にふれ、現在の金沢の茶屋町の風景写真も加えてストーリーを作成する。

さらにARやキネクトを使用するなどして、画像・写真の中に入り込んだり、芸妓の肖像写真に自分の顔が入り込んだりする、といったものを共同研究できたらと考えている。

参考写真

肖像写真にも、多少はお国柄がでるようであるので、参考までに秋田など東北の肖像写真を以下にあげる。





能代港佐藤写真館
大正十四年七月



能代港佐藤写真館
大正十三年十二月



能代港佐藤写真館
大正七年五月

この三枚は同一人物

能代港佐藤写真館での撮影

左上 大正 14 年 7 月

右上 大正 13 年 12 月

左下 大正 7 年 5 月



R. OMORI
AKITA JAPAN



J. Otake
SENDAI
Japan

賜
仙
大
武
製



Mitsuo Kondo
三浦 三郎 製



M. Shiraiishi
白石 三郎 製



J. Holsunganagi
柳 八 田 秋



J. Holsunganagi
柳 八 田 秋



Kiura
新 廣 間 一 郎
聚 店 支 浦 三



SHYODO
業 方 園 丁
三 浦 支 店 聚